

# ドレミの歌

♪男子高生版

登場人物 先生／私立聖ノストラダムス高校教師・古川

堂上／同校生徒・堂上

蓮華／同校生徒・蓮華

水野／同校生徒・水野

不破／同校生徒・不破

反町／同校生徒・反町

城田／同校生徒・城田

欄橋／納品業者・欄橋

女子1／女子高生

女子2／女子高生

／一階／

学校の廊下。

先生がホウキとチリトリを持って掃除している。

堂上、上手からやってきて、

堂上 へきげんよう。

先生 (窓を指さし) 割れてた。誰がこんな事するんだろうね。高いんだよ、窓ガラス。…もお

ダメかなあ、この学校も。…生徒の前だった。まあ、あれですよ、学校がダメになるかなら

ないかは、生徒である君たちに掛かっていますから、ええ。

堂上 先生。

先生 ん？

堂上 …へきげんよう。

先生 へきげんよう。

先生、上手に去る。

堂上、ゆつくりと窓に近づき、外を見ている。

堂上 「少年は最初 自由に向かっていたため息をつく」「自分の進む道を見つけた時、少年は大人

になる」「少年よ、大志を…

反町が上手からやってきて、

反町 あ、(駆け寄り) セーの、

と、あっち向いてホイを挑んで来た。

ひとしきり盛りあがったら、

反町 やっぱ強いなあ堂上君は。あはははは。あはははは。あははははははは。あははは。

堂上 反町君、

反町 なに？

堂上 僕は君をかなりのバカだと思ってるよ。

反町 なんだよいきなり。僕はバカじゃないよ。

堂上 君はバカだ。君ほどバカな人間を僕は知らない。だからこえ僕は君に憧れているんだ。

反町 何その叩きつけてからの抱擁。僕はパンじゃないよ。

堂上 そんな君だから僕がずつと言いたくて言いたくてうずうずしていた事を今言おうと思う。

反町 …なに？

堂上 この学校は、男子校じゃないよね？

反町 うん、男子校じゃないよ。

堂上 そうだよね。

反町 どうしたの？

堂上 じゃあさ…、

反町 うん。

堂上 どうして居ないの、女子？

反町 …え？

堂上 これは別に女子に居て欲しいとかそういう意味じゃないからね！単純な疑問として言うてただけだからね！

反町 ああ…。

堂上 どうして居ないの女子。男女共学のはずなのに。

反町 ホントだ、考えたこともなかった。

堂上 ほら君はやっぱりバカだ。

反町 僕はバカじゃないよ。

堂上 だって君、悩みとか無いだろう。

反町 あるよ悩みくらい。

堂上 なに？

反町 わ、無い！

堂上 ほらね。

反町 無いよ僕、悩み無いや！あはははは！

堂上 「少年が幸福なのは、何も知らないためであり、老年が惨めなのは、全て知っている為である」

反町 誰だいそれ？尾崎豊？

堂上 考えるからいけないんだ。ようやく半分じゃないか。半分我慢出来たんだから、あと半分の我慢なんて簡単さ。全ては良い思い出になるはずだ。

反町 どうしたの堂上君？何をそんなに思いつめているんだい。

堂上 そりやあ僕だって今のままで充分楽しいとは思っているよ。でも女子が居たら居たで、それはまた別の楽しみもあるんじゃないかと言ってる。

反町 変な事考えるんだなあ堂上君は。

堂上 例えは掃除の時間とか、か弱いからさ女子って奴は、動きものろいし重いものも持ち上げられないから僕が面倒見てあげなきゃならないんだ。

反町 「あ、いいよいいよそれは僕が運ぶから」って？

堂上 「君は黒板消しをクリーナーにかけといて」ってね。

反町 「あ、でもチョークの粉を吸い込むと肺に悪いからそれもやっぱり僕がやるよ」って？

堂上 「僕なんかチョークの粉を吸い込んだところでへっっちゃらさ」って。「なんならチョークの粉をたくさん吸い込んで体内でチョークを一本作ってみせてあげるよ」ってね。

反町 すこい！どこから出てくるの？そのチョーク。

堂上 「うんちと一緒に出てくるよ」ってね。

反町 「だから君は触らない方がいいけどね」って？

堂上 違う。こんなじゃない。

反町 まったくユニークだなあドノウエ君は。せーの！

またあっちむいてホイを始める。

反町 あー、強いなあ。あはははは。

堂上 ねえ、さっきのチョークの話だけど、

反町 うん。

堂上 あれは聞かなかったことにして、あれはとても危険なユーモアだと思う。僕ら二人だけだ

つたからこれだけの軽傷で済んだんだ。時と場所を選ばないと命の危険だってあるんだぜ。

反町 難しいんだな、ユーモアって奴は。さあ帰ろう、もうすぐ中閉まっちゃう。

堂上 うん…。

反町 ？

堂上、寂しそうに視線を窓の向こうに向け、見上げる。

堂上 なんて高いんだろう、この壁は。

反町 うん、高いね（見上げる）。

堂上 僕はね、中学時代テニス部だったんだ。だから高校に入ってもテニス部に入ろうと思っ

た。

反町 入れば良かったじゃない。この学校にもあるよね、テニス部。

堂上 …。

反町 どうして入らなかったの？

堂上 …。

反町 …。

堂上 …。

反町 …。

堂上 …。

反町 …。

堂上 …。

上手から蓮華、やってきて、

蓮華、まるで力なくトボトボと歩きます。  
堂上達もついていく。

蓮華 君達ダメだよ、変な事考えてたら。

反町 あ、蓮華君、せーの！

堂上 変な事なんて考えてないよ。部活の話なんだから青春の二ページさ。

蓮華 テニス部だって、練習の時はジャージだよ。

堂上 知ってるよそんな事は。

蓮華 試合の時だけだよ、ミニスカート履いてるのは。

堂上 ミニスカートって君、あれはスカートじゃないよ。スカートって言うんだ。

蓮華 スカートって言ったよ。

堂上 言っていないね、はっきりミニスカートって言った。

蓮華 言っていないよ。それは堂上君がミニスカートの事を考えていたからスカートに聞こえたんだ。

堂上 僕はミニスカートの事なんか産まれてこの方一回も考えたことはない。そもそもミニスカ

ートなんて日本に要らないと思う。日本人女性の体形には合わないんだあのミニスカートって奴は。日本にミニスカートを持ち込んだツイギーを僕は恨むし、それに熱狂した日本人女性もどうかしていると思う。

蓮華 物凄くミニスカートについて考えてるじゃないか。

堂上 それは感情の裏返しかもしれない。好きの反対は嫌い、嫌いの反対は好きというのと一緒

さ。

蓮華 じゃあ結局はミニスカートが大好きなんだ。

堂上 うんそう思って貰って構わない！

蓮華 なるほどね。

反町 もおミニスカートの話は止めてえー！こんなにミニスカートって連呼している人を見る

のは初めてだから僕は、どうにかなってしまっただ…(頭を抱える)。

堂上 …まったくどうかしている今日の僕は、こんな話をするつもりじゃなかったのに…。

蓮華 もっ帰ろ。門が閉まる。バカと話して反省文なんて割に合わない。

堂上 でもホント、良かったとは思ってるんだよ、うちの学校に女子テニス部が無くて。あんな

格好で校内をウロウロされたらたまらない。

蓮華 女子バスケットも女子卓球部も、女子と名のつく部活は何ひとつ無いがね。

城田、上手からゴム手袋をして現れて、

城田 女子トイレも無いんです。

三人、立ち止まり城田を見る。

城田、そのまま下手に去る。

堂上 男子校だよそれ！女子トイレが無いなんて、もう男子校だよ。

蓮華 うるさいなあ君は。僕はこゝが男子校だろうが女子校だろうがまったく関係ないね。

堂上 女子校だったら君は入れないじゃないか。

蓮華 よりハイレベルな教育が受けられればそれでいいのさ。

堂上 ああ、そうですか、ごきげんよう。

反町 ほら帰ろう。ぐずぐずしていると風紀委員が来るぜ。

堂上 僕らは別に風紀を乱している訳じゃない。なのに一体何を取り締まるって言うんだ、ホント馬鹿なんじゃないかと思っよ学校の…。

下手から風紀委員のバッジをつけた水野、やって来る。

堂上 …方々。

水野 ごきげんよう。

蓮華 ごきげんよう。

反町 ごきげんよう。

堂上 ごきげんよう。

蓮華 噂をすればお出ました。

水野 君たちはこんなところで何をしているんだい？

蓮華 もつ、今帰ろうとしてたところなんだ。じゃあな。

水野 残念だがもう時間だ。今から一時間は校舎からは出られない。

堂上 僕、塾があるんです。

水野 じゃあどうしてさつさと帰らなかった？

堂上 窓ガラスが割れていたんです、それを掃除していました。

水野 本当だ、割れているね。

堂上 一体誰がこんな事するんでしょうか。高いんですよ、窓ガラスは。

蓮華 下手へ去ろうとする。

水野 レンゲ君、どこ行くの？

蓮華 …あ、トイレ。

水野 トイレはそつちじゃないよ。

蓮華 …友達だろ、僕達。

水野 風紀委員は僕だけじゃない、校舎の全ての入口に5人ずつ立ってる。

反町 何人居るの？

水野 風紀を乱す奴は後を絶たないからね。

蓮華 …水野、君はいつからそんな男になったんだ？

水野 どういう事？僕ははずつこのままさ。

蓮華 嘘付け、中学の時の君はそんな風じゃなかった。もつと健全な男だったよ君は。

水野 今は健全じゃないと言っのかい？

蓮華 健全じゃないよ、中学時代の君はエロ本を探して公園を徘徊していたじゃないか。

水野 それのどこが健全だというんだ、変態の間違いじゃないのか。

蓮華 そうだ変態だ。君は変態だった。変態の君が風紀委員なんて冗談じゃない。僕と代わりました。

まへ。

水野 風紀委員は校長から直々に指名される名誉ある職務だ。君なんかには務まらないね。

蓮華 聞いたかい？僕は今、中学時代からの友人を一人失ったみたいだ。

堂上 じゃあ僕が代わりにお友達になってあげよう。僕は二年D組堂上マサルです、よろしく。

堂上、手を出す。

水野は出さない。

堂上 さて水野君、ひとつお友達として聞いておきたいんだが、どうやったら指名されるんだい、その風紀委員には。

水野 初対面の君にお友達呼ばわりされるとはまあ思わなかったが教えてやる。

堂上 ありがとう。

水野 まずは定期試験で常にトップ十に入ること。

堂上 僕は一年時から常に十番目をキープしている、なぜお呼びが掛からない？

蓮華 僕は九番目だ！

水野 もう一つ、

堂上 うん。

水野 これははっきりとした基準がある訳ではないのだが、

堂上 なんだ？

水野 校長の好みだ。

堂上 …校長の、好み？

水野 そうだ。

蓮華 水野、まさか君…。

水野 なんだい？

蓮華 なんでもない…。

水野 よいか、これより一時間は、何人たりとも校舎の外には出られない。強攻突破しようものなら後で物凄く痛いことが待っている。大人しくしている。

水野 下手に去る。

蓮華 水野…。

蓮華 水野…。

蓮華 水野…。

堂上 …風紀委員、なんて恐ろしい奴らなんだ。

蓮華 学校の犬さ。

堂上 首輪を外せと言いたいね。

反町 校長つてさ、男…？

蓮華 え、そりやそつでしよ？

反町 そつ、だよね…。

蓮華 …え？

反町 あ、ううん。

堂上 …え？

蓮華 え？

反町 え？

城田、下手からやってくる。

城田 あ、皆さんもひよつとして帰れなくなった組ですか？もしあれでしたらトイレ掃除手伝つて貰えませんか？

堂上 …。

城田 僕、トイレ掃除、思いの外時間が掛かってしまつて、まだ二階までしか行けてないんです。一緒にやつて頂けると助かります。

先生、上手からやってくる。

城田 あ、先生も。

先生 …え？

城田 先生もトイレ掃除手伝つて下さい。

先生 …は？

城田 僕二階に居ますんで。

先生 …え？

城田 では。

城田、上手に去る。

先生 …僕、先生なんだけど。…君たちも、早く帰りなさいよ。

先生、下手に去る。

反町 そんな事言われても帰れないんだ。

堂上 今のあいつ、二階に行くつて言つてなかつたかい？

反町 言つてた。

蓮華 トイレ掃除を名目に登つたつてそんなの通用する訳ないのに。

反町 知らないのかな、校則。

蓮華 そんな訳ないだろ。

反町 じゃあ…？

堂上 この校則にしたつておかしい話だと思つよ。どうして僕らが上の階に登つちやいけないの？

反町 堂上君、シー（指を立てる）。

堂上 しょうがない、僕行つて止めてくる。

反町 え？

堂上 校則違反しようとしている生徒を黙つて見過ごす訳にはいかないよ。僕の正義の心がさう言つてる。

蓮華 ダメだよ、どんな理由があつると上の階に上がるのは禁止なんだ。

堂上 じゃあ教えて、それはどうして？

蓮華 …。

堂上、窓際に寄り、見上げて、

堂上 上の階に登ると壁の向こうが見えるんじゃない？だから生徒が勝手に登るのを禁止してる。学校の方々は僕らに見せたくないものを壁の向こうに隠してる。そついう事じゃない？

反町 堂上君…

蓮華 見せたくないモノとはつまり…？

反町 堂上君、せーの！

堂上 だつて考えてごらんよ、この学校は僕らが入学する前の年まで女子校だったんだぜ。て事はさ、僕らが一年の時、二年三年は女子ばかりじゃない？どうして一人も居ないの？

反町 そうだワンピースの事考えよ。堂上君はどんな悪魔の実が欲しい？

堂上 僕が今欲しいのは壁抜けの実！

反町 それ壁抜ける為にしか使えないじゃん、ダメだよそんな応力の低い実。

堂上 登下校の時間が限られてるのもその為さ、今僕らを閉じ込めてる間に壁の向こうの女子は別の出入り口から下校してんだ。

蓮華 そんなの無理だよ、隠し通せる訳がない。だつて校舎の外で待ってたらわかる事だもん。

堂上 じゃあなんなのこの壁は？意味わかんないじゃん。なんでこんなに高いの？

反町 頭が痛いわ（抱える）…

堂上 （上手の方へ）おい君、待たたまえよ君！

蓮華 どこ行くんだよ。

堂上 僕はあいつを止めに行くんだよ。

蓮華 ダメだったら。

蓮華、堂上の腕を掴む。

堂上 放せよ、悪いのはあいつだ。

堂上、行くこうと腕を引くと軽く抜ける。

蓮華 ヨセツたら（掴む）。

堂上 放せよ（抜ける）。

蓮華 行くなよ（掴む）。

堂上 放せよ（抜ける）。

蓮華 ダメだよ（掴む）。

堂上 君汚いぞ、僕を止めながら二階まで行く気だな。

反町 おい、なんだ君達はさつきから、やってることはまるで不良じゃないか。

堂上 これはただの探究心なんだ。みんなは僕をノストラダムス高校のインディ・ジョーンズと呼ぶがいい。

反町 ねえ堂上君

堂上 インディだろ。

反町 もうヤダ！僕は帰る。変な事はっかり言つて。もう絶交する。好きにしろよ、君達が上の階に昇ろうと何をしようと、僕は無関係だからね。

蓮華 …帰れないよ。

反町 何しろ僕はもう君達の事は知らない。見たこともない事にする！

蓮華 反町君。

反町 聞こえない、何も聞こえないぞ。

蓮華 …こんな冗談に決まつてるじゃないか。

反町 え…？

蓮華 どうせ僕らには何も出来ないのはわかつてる…、わかつてるさ。

反町 …

蓮華 校長が恐いのは皆知つてる、大人しく時間が過ぎるのを待とう。

反町 …そうだよ、びつくりしたなあも。あはは。

堂上 …

反町 そうだ、僕がタケノコの話をしてあげる。タケノコはね、早く頭を出すと人間に抜かれてしまふ。遅れて出て来た方が後で大きく育つんだ。僕等は腐ったみかんじゃない、タケノコさ。だから良いじゃないか、僕らの物語は、卒業してから始まるんだ。

蓮華 …

反町 …はは。

堂上 …校長はね、ハマーに乗ってる。ハマーつてのは米軍の軍用車を民間用にリフォームした車なんだ。学校の長が軍用車に乗ってるってどうなのそれ。…って思つてる奴居ると思つよ。

蓮華 軍用車に乗ってる人なんか敵う訳ないよな。

堂上 そうだよ。…それでもね、

蓮華 うん…。

堂上 男には、負けると分かってもやらねばならない時がある！なぜ男女共学なのに男子しか居ないのか。そして女子の先輩達はどこに消えてしまったのか。

反町 うー…(頭を抱える)、

蓮華 …僕も、僕も知りたい。

堂上 大きな疑問を抱えたまま卒業して、この三年間を無かった事にするなんて僕には耐えられない。

蓮華 僕だってそうさ。僕らの三年間は、ただただ壁に向けてため息を吐いただけじゃないんだよ。

反町 全く君達と違って、どうして僕に忘れてしまった感情を無理矢理思い出させようとするんだ。そんな事言うんなら僕だってそうだよ！

堂上 言っておくが僕は女子なんか居ても居てもどっちだっていいんだぜ！

蓮華 どっちも居るよ！それどっちも居る！

反町 僕だってーだって女子なんか居たら面倒くせーもん！あいつら足腰が弱いんだろ？僕ら

蓮華 それは助けてあげる為？

反町 違うよ、ぶつかって来られたら困るんだ。僕らは大学受験を控えている。こんなところで変な腕のつき方してーたらんよ、鉛筆握れないぜ。

蓮華 受験は来年だけじゃね！

堂上 転ぶ勢いで抱きつかれてーたらんよ、…もう気持ち悪いよ。細くてさ。きつとびつくりするほど細いんだぜ、女子って奴は。

反町 変な匂いするんだ、きつと。

堂上 するする、あのデパートの一階みたいな匂いね。

反町 そうそう、あれくっせーんだ。

蓮華 あれはどうして一階に化粧品売り場があるか知ってる？

堂上 え、知らない、なんで？

蓮華 地下に食品売り場があるだろ、その匂いを消す為さ。

堂上 へー、なるほどね。

反町 ねえその話どうでも良くない？

蓮華 そうだよ、どうでもいいよ。女子くらいどうでもいいよ。

堂上 そうだよ、どれくらいどうでもいいかって事の例え話をしてたんだよ。イイ例えだったよ。

蓮華 ありがとね。

堂上 どう致しまして。

反町 このように僕等はけっして女子の事が気になってるんじゃない！

堂上 この学校の体質の事を言っているんだ。この学校を変えていかなきゃならない、それが

僕らの役目なんだ。

蓮華 その通りだね！

堂上 女子なんか関係ないんだよ。

蓮華 来年の、新一年の為に、僕らが頑張らなきゃ。

堂上 この学校がダメになるかならないかは、生徒である僕達に掛かっている！

反町 うん！

先生、下手から戻ってきました。

途端 先生を黙って睨み付ける三人

先生 …僕、先生なんだけど。

続いて水野やってきて、

水野 先生でもダメですよ。

先生 (生徒達を見る)…いやね、僕も外に出ちゃダメだって。どうしてなんだらう？僕、先生

だよ…。

水野 先生でもダメです。この時間は校舎外には出られません。

先生 …あの、僕今日休みなんです、もともと。

水野 …。

先生 その、忘れ物取りに来ただけでね、そしたら窓ガラスが割れて、それ掃除してたんです。

だから、イイ事してたんですよ。

水野 先生が嘘ついたらダメですよ。

先生 嘘じゃないですよ。だってその窓ガラス割れてるでしょ？

水野 君が掃除したんだよ？



堂上 ……あ、はい。

先生 ……え、ちよつと、なんでそんな事言うの？君はなんにもせずにそこで見てたじゃないかよ、

水野 先生は、生徒に罪をなすりつけている。これはチェックしておきます。

水野 手帳を取り出し見せる。

先生 えー、ちよつと待つてよ、だつて見てたじゃないかよお、僕片付けてたじゃん。

堂上 先生、ひどいです。

先生 ひどいのは君じゃないかよ、ちよつとー、

堂上 謝つて下さい。

先生 ヤダ。

堂上 じゃあ先生…、

顔を見合わせ、うなづく三人。

堂上 僕らに力を貸して下さい。

先生 なんの「じゃあ」かがわからないし、僕にはなんの力もありません。

堂上 これは先生にしか頼めないんです、お願いします。

先生 それよりも、僕の身の潔白を晴らしてくれませんか？

堂上 僕らからの質問状を、さも僕らから聞いているんじゃないかのように校長に、

先生 ヤダ。

堂上 まだ何も言っていないじゃないですか。

先生 だつてもお校長とか、ヤダ。

堂上 ……ダメだ。あいつはダメだ。まるで力にならない。

蓮華 学校側にもスパイは必要だよ。

先生 ……ちよつと君たち？何を企んでいるの？止めときなよ。

水野 手帳になにやら書きこもつとする。

堂上 この学校は、男女共学なんですよね？なのにどうして男子ばかりなんですか？

先生 ……え？

水野 顔をあげる。

堂上 だから、どうして女子居ないんですか？

先生 あ、居ませんか？

堂上 居ませんよ。え？居ないでしょ？

蓮華 居ないよ…。居ない…。居ないよ…！。

堂上 居ませんよ。

先生 ああ…。

堂上 ああ、じゃなくて、どういう事ですか？どこかに隠してるんですか、女子。

先生 ……は？

堂上 これは例えばの話です。それくらい女子に遭わないって事ですよ。

反町 僕らもう二年なんです。今まで一回も、女子に会った事ないです。

先生 そうなんですか。

堂上 どういう事ですか、この二年間たまたま女子の入学が無かっただけでどうも言うんですか？

先生 うーん…、

堂上 もともとこの学校は、女子校だった訳でしょ？その僕らが入学する前の年は。

先生 はあ。

堂上 てことはさ、僕らが一年の時は、二年三年は女子ばかりじゃないの普通？

先生 ……は？

堂上 だから二年三年は女子が一人も居ないのはおかしいじゃないですか！僕らが一年の時、そ

の時の、二年三年はと行つちやつた？おかしいなあと思つてもう一年半経つちやつたじゃないですか。どうしてくれるんですか僕らの高校生活。もうホント無駄な事に氣遣つて、半分来ちやつたじゃないですか。どうしてくれるんですか！

先生 いや…、うーん、でもほら、まあ大学行ったら女子大生にも会えますし、

堂上 それは「女子大生」でしょ？所詮女子大生でしょ？僕らは今この時を言つて居るんです。

「女子大生」と一緒に過ごせる時間は人生の中でたった二年間しかない。その貴重な三年間

を無駄に過(せと、そう言うんですか先生は？

先生 …え、そんなに？

堂上 これは別に僕らが女子に会いたいわって言うてる訳じゃないんで誤解しないで下さいね。僕等が問題にしているのはこの学校の事なんです。この学校の隠(ひ)い体質を問題視してらるんです我々は。

蓮華 いじめとか天下りを公表しろって言うてるんじゃないんです我々は。

反町 女子の居場所を教えてくれと言っているんです我々は。

先生 居場所と言われても、

堂上 別に僕らが会いたいわって訳じゃないんです！未来の子供達 新一年の為に言っているんです我々は、どうなんですか先生。

先生 いや、えー！、

堂上 だって男女共学なんですよね？これじゃあ男子校じゃないですか。

先生 (苦笑して) ああ…、

堂上 え、何笑ってんの？え、何笑ってんの？

先生 あ、すいません。

堂上 だってこれじゃあ何の為にこの学校に入ったのかわかんないですよ僕ら。

先生 え？

堂上 そりゃあわかってますよ！学生の本分は勉強だって事くらいわかってますよ。でも女子居ると居ないのとじゃ全然そのモチベーションが違いますからね。

先生 はあ…。

堂上 だからホント、良かったなあとは思ってるんですよ女子居なくて。ホント女子なんか居たらもう邪魔臭いですからね。もう勉強に支障が出ますから、うるさくて。

反町 うるさいよお、女子は話し出すと止まらないらしいから。

堂上 でしょおっだから良かったなあとは思ってるんですよ。

先生 …ん？

堂上 どうしてくれるんですか！

反町 どうしてくれるんですか！

蓮華 どうしてくれるんですか！

先生 …なんで今頃言うんですか？

堂上 …は？

先生 いや、なんで今頃言うのかなって…、

堂上 なんで今頃言うのかなって聞く普通？

先生 …すいません。

堂上 今頃だからですよ、もう二年も学期ですからね。あと半年で、卒業ですからね、唯一残った三年の女子は！あと半年で居なくなっちゃうんですよ、こりや言つとかないと気が済まないって話ですよ。

先生 ン、ごめんなさい。どういう事？女子生徒が、居なくて良かったと思ってるんですよ？

堂上 そうですよ。だって女子の先輩がうじゃうじゃいると思ってるからじゃない？

蓮華 気持ち悪いよ。

堂上 気持ち悪いよねえ？

蓮華 うん。

先生 じゃあ良かったじゃないですか。

堂上 …うん結果的にはね！でも結果ですからね。結果良ければ全てイイって訳でもないですからねこればかりは。だってこれ詐欺みたいなもんですよ。

蓮華 詐欺…？

堂上 だって詐欺でしょう？女子校が今年から男女共学になりますって言ったらいの男子は飛び付くよそりや。僕らは違いますよ！僕らの話じゃなくてね。

先生 はあ。

堂上 だからそれを利用して入学者増やそうとしたんでしょ？違います？

先生 いや、どうなんですかねえ？

堂上 どうなんですかねえじゃなくて、それが普通の男子的発想だって言ってるの。

先生 はあ…。

堂上 でも実際入学してみたら女子一人も居ないなんて、それは詐欺でしょう？ねえ？

蓮華 ああ、うん。

先生 あのお、

堂上 はい。

先生 でも会ったことありますよ僕。

堂上 …え、女子に？

先生 はい。

間

生徒達 ええ？ええ？いつ？！

先生 いや、いつって言うか…、

反町 は？え、何組？何年？

先生 いや、何年何組かはわからないですけど…、

反町 なんて判んないの？先生でしょあんだ？

先生 ちよつと皆さん、声…、

堂上 どこ？どこで見たの？

先生 いや廊下ですれ違つて…、

水野 え、え、何階の廊下ですか？

先生 いや、もう覚えてないけど…、

蓮華 (水野に) なんて君が入つて来るんだよ。

水野 どんな感じなんですか？

堂上 え、何回くらい会つたことあるんですか？

先生 いや、まあ、結構…。

反町 結構つてどれくらいですか！

蓮華 ちよつと落ち着こうよみんな。

水野 どんな感じなんですか！

反町 結構つてどれくらいですか…。

蓮華 みんな一日深呼吸しよ！

堂上 しないよ！

蓮華 しない？よし！

水野 え、じゃあ居るつて事ですか？この学校にも女子。

先生 まあ、そういう事だと思っんですけどねえ

堂上 え、じゃあなんで会わないんですか、僕等は。

先生 うーん…、

堂上 どういう事ですか？何階の廊下に出没するんですかその女子は。

先生 そんな、熊じゃないんで…。

堂上 熊と女子を一緒にするなんて、それちよつと問題発言ですよ先生。

先生 あ、すいません…。

蓮華 え、何時限目とか覚えてないんですか？

先生 いや、割と普通に歩いてますから、ええ。

反町 ふぎけんじゃねえぞこの野郎！(殴りかかろうとする)

蓮華 おい！

反町 僕ら一回も見たことないですよ！見たことないんですよ！見たことない人達に向かつて、

割と普通にー？バカにしてんのかー！

先生 えー？！

堂上 ちよつといかん、こいつ興奮しすぎだ。

蓮華 うん、お前ちよつと座れ。

反町 だつて…、だつてバカにしてんじやないかよ…(体操座り)。

堂上 それは何ですか？かたまつて歩いてるんですか？

先生 …え？

水野 どんな感じなんですか？

堂上 だから、複数居るんですか？

先生 いや…、

水野 大きいんですか？

先生 何が？

蓮華 その時は何人居たんですか？

先生 まあ、一人、かなあ。

蓮華 一人？

反町 匂いは？

堂上 かなあ、つて何？なんでそんな曖昧？ねえ、ホントに見たんですか？

先生 見ましたよ。見たのは間違いないですから…、

反町 どんな匂いなんだよ！

堂上 じゃあなんで一回も見ないんですか僕らは！

先生 皆さんは会いたいですか女生徒に？

堂上 僕らは別にいいんですよ！

蓮華 うん、僕らはほんと、女子なんて、ええ。

水野 風紀が乱れますからね、女子居ると。

反町 どつかに居るんだと思うだけでもう、邪魔臭いねー。

生徒達 うん…。

先生 …あのお、皆さんね、あんまり大声で騒いでると、怒られちゃいますよ、他の先生に。

堂上 この壁の向こうには何があるんですか？

先生 え？

皆 壁の方を見る。

堂上 どうしてこんなに高いんですかこの壁は。

反町 まるで刑務所だよ。

先生 ああ…。

堂上 なんの為に存在するんですかこの壁は。

先生 うーん、僕じゃあ良く分からないんで、校長に直接聞いて貰った方が、

堂上 校長に直接なんか聞ける訳ねえだろうがよ！

蓮華 先生が聞いてよ！先生が！

先生 僕が？

堂上 バカー！

水野 先生が自主的に聞いてよね！

反町 僕らは関係ないですからね！

堂上 バカー！

先生 …。

水野 校長とか言ってるじゃねえよ…。

堂上 バカー！

蓮華 何言ってるんだよ…。

反町 何言ってるんだ。

堂上 バカー！

先生 イヤ、僕学校の事はホント…。

蓮華 みんなちよつと落ち着こう。先生の言ってるのはたった一人だけの女子かもしれない。

堂上 そうか、そうだね。

水野 一年に女子が入ったという話は聞いてないよ。

蓮華 なんにしろ、今突っ込んででも大死にだ。

堂上 うん。そんなとこの馬の骨の女子かもわからないギリギリの女子に一喜一憂してもしょう

がない、僕らが探しているのは海のような女子だ。

反町 ん？

堂上 海のように広がる女子の群れだ。

反町 あ、うん！

先生 …あのお、僕そろそろ、

堂上 …。

先生 そろそろ、帰らないと、まずいんで…、ええ…。

堂上 …は？

水野 帰れませんか。

先生 え、でも僕、先生だし…。

堂上 なんですですか？

先生 え？

堂上 何があるんですか？今帰って。

先生 いや…、そろそろ、帰りたいなあと思って…。

堂上 だから何があるんですか？

先生 いや、今日は、ちよつと、DVDでも借りて来ようかなあ…。

堂上 …は？

先生 …え？

堂上 …。

先生 …えつと、ゲオの会員なんで、ええ…。

堂上 うん、そんなさ、先生がどこの会員かなんて聞いてないじゃないですか。

先生 …はい。

堂上 え、僕らのこの話と、先生のゲオの話、え、同じくらいのアレなんですか？

先生 ……え？

堂上 違いますよね？ねえ？違いますよね、重さが全然。

先生 ……え？

堂上 え、ちよつと待って下さい。え、僕らはどうしたらいいんですか？

先生 ……あ、いや、今日僕、休みなんですよ実は。授業無いし、受け持ちのクラスとかも、無いんで、ええ。私立はその辺のところか、ええ…、ハハ…。

堂上 はい。

先生 だから、今日は、DVDでも

反町 だからためえのDVDはいいんだよ、いつでも見れんだろうがよ！

先生 うるさいよお…。

生徒達、反町を制する。

反町 何を見るって言うんだよ、こんな時に…。

先生 ……君たちは、アレですよ、ちよつとストレスがたまってますから。あの、あ、そっだ、その、DVDでも。

反町 なんのDVDを見せようとしてるんだよ！

先生 えー？

蓮華 女子はどこに居るんですか？

先生 ……君たちが、なんか怖いよお。鬼畜のようだよ…。

水野 先生が大人しく出せばいいんですよ、女子。

先生 ……だから、僕もどこに居るのやらわからないからね？その、うん。

堂上 先生。

先生 ……はい。

堂上 先生は、ちよくちよく会つんですよね？

先生 まあ、ちよくちよくつていうか、まあ、はい。

堂上 ちよつと一緒に歩きましょうよ。

先生 え、どこを？

堂上 校内内ですよ。

先生 いやでも…、もうこの時間は、居ないんじゃないかなあ…。

生徒達、先生を睨みつけている。

先生 僕今日、休みなんですよね…。

上手に歩きたす。

と、業者のおじさん・欄橋が下手からやってきた。

段ボール箱を二つ持っている。

欄橋 あのお？

先生 あ、どうも、ご苦労様です。

欄橋 三年の、川口先生のクラスは、どこですかね？

先生 あ、川口先生…？えー、あ、どこだろうなあ。

生徒達、犬のように先生を睨みつけている。

先生 んー、ちよつと待って下さいね。

先生、下手に行こうとする。

堂上 どこ行くんですか？

先生 あ、ちよつと職員室…。

堂上 職員室なんか行きませんよ。

先生 あ、でも、川口先生の…。

蓮華 なんにも知らないんですね、先生。

先生 だって今日、休みだから、

堂上 休みは関係ないんじゃないですか？

先生 あー、じゃあ、どうしよう…

欄橋 ?

水野 一緒に探したらいいじゃないですか、ちよつど良いですよ。

先生 え?

生徒達、睨みつけている。

先生 …、じゃあ、行きます?

欄橋 はあ。

先生 とりあえず、二階に行きましようか。この階に川口先生なんていう先生は居ないと思いま  
すから。

欄橋 はい。

先生 あ、持ちますね。

欄橋 ああ、

先生 もう一個誰か…

誰も答えない。

先生 …じゃあ、二階に。

欄橋 はい。

上手に去る、一行

暗転。

／ 二階 〃

城田と不破、並んで窓の外を見ている。

不破 ♪ねえおかしいでしょ若いころ。ねえ滑稽でしょ若いころ。笑い話に涙が一杯、涙の中に

若さがいっぱい。人生いろいろ♪…この歌、しばらく僕は、涙の中には「傘」が一杯だと思っ

ていたんだ。

城田 はい。

不破 ♪母さんがよなべをして手袋編んでくれた!…これはけして母さんが夜、鍋をしながら手  
袋を編んだ歌ではない。夜、鍋をしながら編んだ手袋なんてクソくらえだ。

城田 あ…

女子1、下手から上手に歩いて行く。女子の手には「2」というナンバープレート。

その姿を茫然と見送っている城田。

不破 ♪思い込んだら試練の道を!…、これもけして星飛雄馬が「重いコンダラ」を引いてトレ  
ーニングをしていた歌ではない。というかコンダラってなんだい。とまあこのように、歌とい  
うのは聞く人がどこで区切るかによって、随分違った印象に聞こえるものです。こんにちは  
不破万作です。

城田、目をすり、上手に去って行く。

不破 ♪あん、あん、あん、とっても大好きドラえもん。…これは別に、ドラえもんがあんこが  
好きだという歌ではない。…じゃあ一体「あん、あん、あん」ってなんだ。何を甘えているの  
かバカ者。

一行が下手からやつてきた。

先生は、反町に袖を掴まれている。

堂上 男の生きる目的は全て女にモテる為である、と言っても過言ではない、という奴がいる。

けどたいていはモテない。モテる事が生きる上での全ての衝動としたら、モテない男はもう  
生きていても仕方がない、という事になる。なので生きていたい男はモテル為ならなんだつて  
する。

先生、不破を見て、会釈。

不破 こきげんよう。

先生 こきげんよう。

堂上 これは友人の話なんだが、そいつは小学校で学級委員をやっていた。小学生は総じて頭が良くて面白い奴がモテる。だからそいつは勉強を頑張った。勉強は努力すれば一番になれるがあの「面白い」というのが困る。面白さというのは努力ではなんともならないから。そいつは知恵を振り絞ってギャグを一個作った。やってみますね。「飛び出せ、青春！」、これでそいつの小学時代は終わった。

先生 えつとお、このクラスは…(教室を覗く)、

堂上 中学になるとそいつはサッカー部に入った。丸坊主が嫌だから野球はダメだ。だけどある日監督が、「次の試合に負けたら全員丸坊主」と言い出した。そいつはベンチで声を枯らして応援したけど試合はボロ負け。次の日全員丸坊主が決まった。そいつは丸坊主が嫌で辞めるとは言い出せず、退部届も出さずにそのまま幽霊部員になった。だつておかしな話ですよ、そいつは試合に出ていないのになんで丸坊主？丸坊主になるならレギュラーだ、そいつにはなんの関係もないこと。

先生 どうも違うみたいですわね。

欄橋 そうですか…。

堂上 そいつに出来るのは勉強だけ。今まで女子校だった私立の名門セント・ノストラダムス高校が男女共学になったと聞いたそいつは迷わずノストラダムスを選んだ。一年の僕等は共学だけど二年三年は女子ばかり。それにどうしてもノストラダムス高校と言えは女子校というイメージがあり男子の入学はさほどでもないだろうと言つのが僕の読みだ。…いや、そいつの読みだ。だけど実際入学してみるとこの有様。周りは全て男子。男子男子男子！これは夢じゃないかと思つた。らしい。でも寝ても覚めても一向にこの夢は覚めない。悪夢の始まりだ。

蓮華 それでもここまで我慢したんじゃないか、よく頑張ったよその人は。

堂上 彼はまた勉強をした。卒業したらは慶応に入るらしい。慶応ならば間違いない、歴史が違う。と僕も思う。でもきつとダメだ。そいつの選択は全て間違える。慶応もそいつが入るときと女子は居なくなる。慶応から女子が居なくなつては困るから慶応だつてそいつが入試を受けるのを阻止するに違いない。他の慶応ボーイからは疎まれる、そいつは男女共に嫌われる、そんな存在になる。

水野 僕等はまだ高校生なんだ、幾らでもチャンスはある。と言つてあげたいよそいつに。

堂上 運というのは皆平等にあるかのように思われているがそうではない。運がイイ奴はずつとイイし悪い奴はずつと悪い。だからそいつにはこの先チャンスはそうない。

蓮華 その少ないチャンスを物にする為に今頑張つておくんだよ。柵から牡丹餅ということわざがあるが柵から落ちてくる牡丹餅を受け止める為には腕力が必要だ。ただぼさーつと待つていてもダメなんだ。鍛えておかないとね。

堂上 (涙がこぼれてしまうので上を向く) 鍛えると言つてもその鍛え方が分からないんだよ。

反町 (堂上の肩を叩き) 一緒に、僕らみんな、一緒に。とそいつに伝えてくれ。

先生 じゃあ、上行きましようかね、このまま、

欄橋 あ、はい。

不破 待て。

先生 …ん？どうしました？

不破 だつたら歌だ。君たち唄を歌え。女つて奴は歌が上手い奴に惚れる。

堂上 誰だ？

反町 転校生の不破君だよ。

不破 君がモテない原因を当ててやろう、音痴だからさ。

堂上 勘違いしないで貰いたい。今の話は僕の事じゃない。僕はモテル。だから僕は音痴ではない。

不破 音痴の奴は皆で言うんだ。

堂上 僕は音痴ではない！言つておくが僕は音痴という言葉も知らない。なんだそれは？ウンチ

みたいでかつこ悪い。

不破 かつこ悪い事から逃げてはいけない。「かつこ悪い」を認めることから始まるんだ。

堂上 僕はウンチではない。

不破 お前の事をウンチだなんて言つてないぜ僕は。

蓮華 歌…？

水野 歌か…。

不破 ミスチルを歌え。

反町 …ミスチル？

不破 僕はこの学校に、合唱部を作る。

堂上 合唱部？

不破 お前らみんな、入れ。

先生 あ、それはいいんじゃないですか？ねえ？みんな合唱部作りなよ。

堂上 ちよつと待ってみんな、騙されちやいけくない。ミスチルなんてかっこ悪い。ミスチルってなんからんこみたいな響きがあるぞ。

水野 なあ君、合唱部に入ればモテるのか？僕らの、いやこいつらの生きる指針は全てそれだ。

どうだ、モテるのか？

不破 それは、君が一番よくわかっているんじゃないのか。

水野 ……わからないから聞いているんだ。

反町 水野君、見回りに行かなくていいの？

水野 ……今一番風紀を乱しているのは君たちだからね。知らないぞ授業後にこんなに騒いで、歌なんか歌ってみろ、後で校長の耳に入ったらどんな目に遭うか…。

先生 あ、そうだよ。そうそう。

水野 そうならない為にも、僕が君たちを監視することにしたのさ。

不破 合唱は風紀を乱す事にはならない。僕らが唄うのはミスチルだ。ミスチルが嫌いな日本人

なんて聞いたことない。

蓮華 確かにモデル部活と言えばテニス部と合唱部かもしれない、僕の中学ではそうだった。

堂上 僕だって三日だけ軟式テニス部に所属していたことがあるよ。けどどっちともモテなかつたよ。

蓮華 それはテニス部のせいじゃない、君のせいだよ。

堂上 違うよ。たいていの男はモデル為だけにテニス部や合唱部に入るかもしれないけど、僕は

純粹にテニスが上手になりたいから入ったんだ、そりゃあモテなくて当然さ。

蓮華 じゃあなぜ三日で辞めたんだい？

堂上 朝練がきつかったから。朝練って奴はどうしてああもきついんだ。僕は朝練が嫌で嫌でた

まらず、中学生なのに土一指腸潰瘍になった。

蓮華 ただの怠けものじゃないか。

堂上 というのは表向きの理由でね。僕はテニスなんかやらなくてモテルのに、テニス部に入ってるだけで「あいつはモテたいんだ」と陰口を叩かれるのにうんざりでね。だから自分から辞めてやったんだ、朝練のせいにして。

反町 合唱部はどうなの？

不破 合唱部に朝練なんか存在しない。朝から声出したってイイ事なんか一つもない。

堂上 そうなのかい？

不破 合唱部に入れば自然と歌が上手くなり、気づくと女子が寄ってくるようになる。

反町 まるで魔法じゃないか。

堂上 僕は歌の力なんて借りたくない。僕の理想はなんの努力もせずに、息を吸ってるだけでモ

テル男さ。

蓮華 君は根っからの怠け者だ。

不破 合唱部に入れば、息の吸い方だつてかっこよくなる。

水野 歌が上手くなったところで寄ってくる女子が居ないんだよここには。

不破 居るじゃないか、この向こうに（窓の向こうを見る）。

水野 き、君は壁の向こうに向かつて歌う気かい？それは無茶だ。

不破 僕らは合唱部なんだ、どこに向かつて歌おうが勝手だろ。

水野 そんな事したら校長にもすく怒られる。最悪の場合退学だ。

堂上 なんだだよ？この壁の向こうには女子がうじゃうじゃ居るんだな！

反町 やっぱりか…！

水野 違うよ、壁の向こうの事は考えちゃいけない事になってるんだい、校則で

堂上 なにそれ変な校則！

蓮華 風紀委員は知ってるのかい、この向こうに何があるか？

水野 知ってる訳ないだろ。

不破 確かめてみようじゃないか、この壁に歌つてさ。

水野 ……どうなつても知らないからな。

不破 大丈夫だよ、僕らには今、先生がついてるんだ。

先生 はあ？！

欄橋 あのお？

先生 あ、すいません、行きましょうか…。

また反町に袖をつかまれているので、



先生 ちよつと、放してちよつと、

反町 かつこいいとか悪いとか、かつこいい僕らには全く関係のない事だけど。モテルとかモテナイとかモテる僕らにはどうだつていい。だけど僕は、合唱には少しだけ興味があると思う。合唱ってなんかすげーなんかすげー青春の匂いがあるし、ずつと勉強に明け暮れて何もしないよりはやるだけやつてダメならしかたないと思つて言つてる。

不破 君、名前は？

反町 反町、たかし。

不破 イイ名だ。そういう名前を探していた。

堂上 これは友人の話なんだけど、そいつのした選択は全て間違える。今回だつてそうかもしれないと思つて怖いんだ、…怖いんだよ。

不破 お前はいつまでかつこつけるつもりだ。お前にはもう失うものは何もないんだろ？

堂上 そこまで言わなくてもいいじゃない。僕にだつて失つて嫌なものくらいある。

不破 そんな事を言っているからモテないんだお前は！もつとがむしゃらに行けよ！

堂上 …。

不破 バカ野郎が。

堂上 …怒鳴るなよ、恐いじゃないか。…僕はいつも深刻に考へてしまふ性質(たち)でね、失いたくないものをアレコレ考へてしまつたんだ…。

蓮華 例えは？

堂上 お母さんとか、

蓮華 うん。

堂上 ちんことか。

蓮華 なるほど、うん。お母さんとちんこを並べてしまえるところが、君の凄(しい)所だと僕は思(おも)うがね。

堂上 ほんとかい？

蓮華 ほんとさ。

不破 ミスチルを歌え。お前に必要なのは、ミスチルだ。

堂上 でもミスチルってなんかちんこみたいな響きがないかい？

不破 いいか、ミスチルの歌詞にはちんこなんて出てこない。

堂上 果(は)てしない闇(やみ)の向(む)こうに♪

堂上・蓮華・反町 おーおー！

堂上 その先の歌詞を知らないんだ。

不破 合唱部(くわ)に入れ、教(し)えてやる。

先生 皆(みな)さんね、ここは廊下(りやうか)だから…。

不破 なあみんな、男女共学(なんにょきょう)というの、女子(じよし)がいつも当(あた)り前に目(め)の前に居(ゐ)るんだろ。そこに居(ゐ)る男子(なんし)は毎日(まいにち)どんな気分(きぶん)だと思(おも)う？

蓮華 女子(じよし)に困(こ)まれた男子(なんし)なんて、歌(うた)が上手(うまい)奴(やつ)に決(き)まつてる…。

反町 勉強(べんきやう)じゃあ僕(ぼく)らに勝(か)つてないからカラオケでモテようつて魂胆(こんたん)なんだ。

蓮華 なんだよカラオケつて…、ボックスで歌(うた)つて何が楽(が)しいつて言う(い)んだ。狭(せま)い空間(くわん)に、女子(じよし)とき、窮屈(きうくつ)たろうがよ。

不破 この壁(かべ)の向(む)こうには沢山(たくさん)のそついう男子(なんし)が居(ゐ)る。そついらに聞(き)かせてやろうじゃないか僕(ぼく)らの合唱(がっしやう)をさ。

堂上 君(きみ)はそんな当(あた)り前の青春(せいしゆん)を、僕(ぼく)らの合唱(がっしやう)で消(く)せると本気(まこと)で思(おも)つてるのかい？

不破 例(れ)え一人(ひとり)一人(ひとり)の力(ちから)は弱(よわ)くても、みんなで力(ちから)を合(あ)わせればきつと勝(か)てる！

生徒達(せいとだ) ……！

不破 お前(まへ)らこのままでいいのかよ？そついつらだつて俺(おれ)達(だ)と同じ高(たか)校(がう)生(せい)だ。似(に)たよつな時に似(に)たよつな土地(ち)に生(な)まれ、食(た)べ物(もの)も変(か)わらなければ背(せ)格(かく)好(こう)だつてそつう変(か)わらんだろ。なのになんだこの差(さ)は、お前(まへ)ら悔(く)しくないのか？女子(じよし)に、会(あ)いたくないのか！

堂上 …会(あ)いたいです！…今(いま)まで、なんとか楽(が)してモテようと思(おも)つてたけど、汗(あせ)水(すい)垂(た)らしてまでモテたくないつて思(おも)つてたけど、…今(いま)は、なんとしてでも会(あ)いたいです！

先生 (指(さし)を立て) シー。

蓮華 …僕(ぼく)も、会(あ)いたい！会(あ)いたいよおー！会(あ)いたい…。(泣(な)きだす)。

反町 僕(ぼく)だつて、僕(ぼく)だつてこのまま高(たか)校(がう)生(せい)を終(お)わらせたくないです。だから、会(あ)いたいです！

先生 すいませんね、もうちよつとだけ待(まち)って貰(もら)つてもいいですか？

欄(らん)橋(はし) はあ…。

水野 本気(まこと)か？僕(ぼく)等(ら)はもう半(はん)分で卒(そつ)業(ぎやう)なんだ、今(いま)まで我(わが)慢(まん)してやつてきて、いいのかい？こんなところ(ところ)で卒(そつ)業(ぎやう)を諦(あきら)めても？リスク(リスク)が高(たか)過ぎ(すぎ)るよ。

不破 水野(みずの)、君(きみ)はなんの為(ため)にこの学(がく)校(がう)に入(い)つたんだ、卒(そつ)業(ぎやう)する為(ため)に入(い)つたんじゃないだろ。

水野 …。

不破 恐いなら辞めろ、だが邪魔はしないで貰いたい。

蓮華 水野、無事に卒業すること、高校で女子に会うって事は、同じくらい価値のある事なん

だと僕は思う。

水野 蓮華…。

蓮華 思い出せ！血眼になってエロ本探してた時の君を。あの時の汗は、本物だったろ？

水野 …。

不破 どうする水野？俺はお前に、僕らの「ミ」になって貰いたい。

先生 ああ、頭文字だね。

水野 …会いたい、僕も会いたい。会いたいです！

生徒達 会いたいです！

不破 よおし、お前たちの気持ちは良く分かった。じゃあ僕はこれから、お前達を殴る。

先生 は？

不破 いいな、堂上。

堂上 はい！

不破 俺はお前の名前が気に入った。歯を食いしばれ！

先生 名前じゃん。

堂上、歯を食いしばる。

それをグーで殴る不破

先生 わ、わ…、

不破 次、蓮華！

蓮華 はい！

不破 頼むぞ！

蓮華 はい！

殴る。

先生 ちよつと…、

不破 水野！

水野 はい！

不破 お前は風紀委員だ、いいのか？

水野 …こんなバツジ、こっつしてやる！

水野 バツジを外してポケットにしまう。

不破 殴る。

先生 名前だよ？君達名前前で選ばれたんだよ…。

不破 反町！

反町 はい！

殴る。

城田 上手からゴム手袋と長靴を履いてやってきて

城田 あー皆さん来てくれたんですね？

城田もついでに殴る不破

先生 あーあ…、

不破 いいか俺だつて痛い！この痛みを忘れるな！

生徒達 はい！

欄橋 箱から楽器を取り出し演奏する。

生徒達は唄う。

♪バカじゃないのと笑わば笑え バカという奴がバカなんだ

そびえる校舎の壁 湧きあがる女子の声 膨らむ妄想

いつか出会えるその日まで 僕等は唄う ドレミの歌

先生 …じゃあ行きましょうか。

欄橋 あ、はい。

城田 …あのお？

上手へ歩いて行く二同。

暗転。

／三階／

廊下。

女子2が立っている。手には「3」のナンバープレート。

チラッと下手の方を見て、わざとらしく髪の毛のピン留めを落として上手に去る。

しばらくして、下手から一向がやってきた。

先生 川口先生っていうのは、音楽の先生なんですか？

欄橋 じゃないんですか？

先生 うーん…？

欄橋 音楽室とか？

先生 ああ…

水野 堂上君、僕らはあんな男の口車にまんまと乗せられてしまったが、本当に大丈夫なんだろう

うか？おまけに三階まで上がるなんてどうにかしてるよ…（見回す）。

堂上 そりゃあ僕らだけで三階に上がるのはどうかしていると思っよ、でも先生が居るんだ、大

丈夫さ。

先生 え、ちよつと待ってよ、僕は知らないからね。

蓮華 不破君は名古屋の学校から転校して来たんだぜ。

堂上 道理で都会っ子ぶってると思ったよ。

反町 都会の奴等は口が上手いからな。痛いなあ、ほつぺ。

先生 皆さん、音楽室どこか知りませんか？

欄橋 仕方なく箱に座る。

先生 …あ、ちよつと休憩します？

欄橋 ああ、いえ…（でも立たない）。

先生 僕今日、休みなんですよね…（座る）。

不破 下手からハンカチで手を拭きながらやってきて、

不破 やあ、お待たせ。

堂上 随分長かったね、トイレ。

蓮華 うんち？

城田 あ、トイレ行ってたんですか？

不破 まあね。

城田 ピカピカじゃなかったですか二階のトイレ。

不破 ピカピカだったよ。

城田 僕が掃除したんです。

不破 そうだったのか。

城田 トイレはキレイにしないとイケませんよ、トイレだけは。

不破 君、名前は？

城田 城田です。

不破 うん、イイ名だ。

城田 僕、トイレ掃除行つて来てもいいですか？

堂上 不破君、ちつとも現れないじゃないか女子。もう三階だぜ。どうしてくれるんだい。

不破 まあまあ、そう焦るなよ。

蓮華 うんち？

城田 僕トイレ掃除…

不破 バカだなあ。僕みたいなおしゃれた男はうんちなんかしない。うんちなんか座まれてこの

方した事がない。僕の肛門からは、奇麗なメロディしか流れない。奇麗なメロディとともに、

フローラルの香りが漂う為に空いているのさ僕の肛門は。

堂上 まったく屁理屈の止まらない男だよ君は。

不破 屁なんてものは僕の肛門からは出ないと云ってるだろ。名古屋の高校生はみなそうさ。

堂上 君の肛門に興味はないね、さ、早くミスチルを教えておくれ。

生徒達 そうだそつだ。

堂上 やつぱりミスチルってなんかちんこみたいな響きがあるよ。

不破 その前に僕らの作戦を説明しておく。

蓮華 作戦？

不破 僕らは個々の力で挑んでも、女子は降り向いてくれない。

水野 そんな事はわかってるよ、どうしたらいい。

不破 合唱なら、一人の力が何倍にも膨れ上がる方法を知っている。

反町 なんですかそれは？

不破 我々の作戦とは、ドレミファソラシ、七つの音を七人で分担し、ひとりひとりの負担を減

らすとともに、一つの音に集中することで個々の力を最大限にまで引き上げる。一人一曲マス

ターしている時間は僕らにはない、七人で一曲マスターするんだ。

蓮華 七人…

反町 ここには、六人しか居ないぜ。

城田 僕…

不破 あと一人、仲間が必要だ。

堂上 あては？あてはあるのかい？

不破 あてはある。

生徒達 え？

不破 先生を見る。

先生 ヲドローはドーナツのドー。れーはレモンのレー。…僕はですね、ドレミの歌が替え歌で

茶化される事が我慢ならんですよ。あれは元々「サウンド・オブ・ミュージック」の一曲な

んですよ。それがどうして、どれもこれもひどい歌詞にされてしまうのか…。

欄橋 はあ。

先生 この学校には校歌が無い。ドレミの歌に、新しい素敵な歌詞が付いたら、そのまま校歌に

出来ないものなんですかね…。

欄橋 それは無理なんじゃないですか？

先生 ですよ…。でも校歌が無いなんて、ひどいと思いますよ。卒業式が締まらない。

欄橋 卒業式でドレミの歌唄ってもね…。

先生 まあ、そうなんですけどね…。

堂上 じゃあ、「ド」は？先生。

先生 え？

堂上 先生の言う、素敵な歌詞っていうのは、どんなですか？

先生 「ド」は、ドリーム。

さわつく生徒達

蓮華 「レ」は？

先生 レインボー。

水野 「ミ」

先生 ミラクル。

不破 「ファ」

先生 ファンタジー。

反町 「ソ」

先生 …空。

堂上 そのままじゃないですか。

先生 空は良いと思うんだ、空で。

不破 「ラ」

先生 ラッキー。

興奮が増す生徒達

城田 「シ」

先生 …僕「シ」は要らないと思う。

城田 …え？

先生 シはダメ。やっぱり縁起悪いもの。

皆 城田を見る。

堂上 うん、でもさ、「シ」無いと、どうなるの？

先生 幸せ。

堂上 幸せでいいじゃないですか！

蓮華 それじゃあそのままなんだ。

城田、うつむいている。

堂上 言つてやれよ、えっと、

城田 城田です。

堂上 城田君、君ならあるだろう。君の思う「シ」とは、何だい。

城田 はい。死とは消滅です。死の先は無です。

堂上 ひどいよ、なんでそんな事言うの？

水野 ひどいよ。

蓮華 ひどいよ。

反町 死ぬのが恐くなっちゃうだろ。

城田 なんと言われようが死の先には何もありません。それは代えるつもりはありません。

不破 それは違うぞ城田君。「シ」の先には「下」がある。

城田 いえ、死の先には無しかありません。死後の世界など存在しない。

先生 ほら、こういう人がいるんだ…。

水野 キヤブテン、彼はダメだ。「シ」に対して希望が無さ過ぎる。

城田 僕はですね、「シ」の先がないと思うからこそ、今を一生懸命生きれるんです。人生は一度きり、だから悔いのない人生を送りたい。僕から言わせれば、生まれ変わりを信じている人は、今の生に対して甘えていると、思いますね。

堂上 城田…。

蓮華 城田さん…。

水野 そうか…、「シ」に対して希望が無かったのは、私の方だったんだね。済まなかった。

城田 いえ。

反町 これは、決まりのようですね。

不破 君は、僕が今まで出会った中で一番「シ」に相応しい。

城田 ありがとう。

不破と城田、握手をする。

皆、拍手。

不破 僕は今、ゴム手袋をした男と握手をしてしまった。

城田 皆さん、残りのトイレ掃除手伝って下さい。

先生 じゃあ行きますか、

欄橋 あ、思い出しました？音楽室

先生 …あ、ああ、音楽室…

不破 先生、合唱部に入ってくれませんか？

先生 …は？

不破 僕らにはあと、「ラ」の音が足りないんです。先生が入ってくれたら、七つの音が揃う。

先生 …は？

堂上 先生お願いします。素敵なドレミの歌詞を作って。

先生 …え、ちよつと待つて、え？…僕、先生なんだけど。

堂上 はい。

先生 …え？

蓮華 お願いします、先生。僕等の「ら」になつて下さい。

水野 お願いします。

反町 お願いします。

先生 …いや、だから、僕、先生…。

堂上 そうだよ先生なんだよ。先生が生徒と一緒に合唱部やる訳ないじゃないか。

不破 顧問はどうだい？

堂上 先生、顧問をやして下さい。

蓮華 お願いします。顧問をやして下さい。

先生 え？

水野 顧問でした。

反町 顧問をお願い。

先生 …。

堂上 お願いします。

生徒達 お願いします！

先生 ヤダ。

生徒達 …。

先生 だって顧問とかやると帰り遅くなるし。あれほとんどサービス残業だもん。ヤダ。

堂上 じゃあ「ド」は、どうなるの？

蓮華 「レ」は、練習不足。

水野 「ミ」は、見かけ倒し。

不破 「フア」は、不安だらけ、

反町 「ソ」は、そばかす。

城田 …「シ」、…失敗。

生徒達 うん…。

堂上 もう唄えないよ。

先生 なんて僕のせいなんですか…？僕の名前は古川です。「ら」とはなんの関係もない。生徒

誘いなよ。「ソ」のつく…、「ライオン君」とか居ないかなど…つかに。

堂上 ライオン君なんて居る訳ないでしょ。

蓮華 居る訳ないじゃん…。

水野 バカじゃないの。

反町 バカだよ。

城田 らつきよ。

堂上 それ井出らつきよしか居ないよ。井出らつきよが僕らの高校に居る訳ないだろ。

欄橋 あのお、

先生 あ、すいません。行きますね。

欄橋 私、欄橋です。

先生 …え？

欄橋 欄橋雄二。

先生 …居たよ。

堂上 は？

先生 ら。

堂上 …何言ってるの？そんな納品業者は何が出来ると言うんですか？え、納品業者は僕らが

合唱するんですか？…なんですか？

先生 …。

堂上 は？え？意味判んないですよ。ねえ？

蓮華 わかんないよ。

水野 わかんない。

反町 僕等は納品されませんからね。

先生 …君達ちよつとその言い方、納品業者をなんかバカにしてないかい？

堂上 してないですよ。納品する業者だから「納品業者」じゃないですか。

蓮華 その証拠に納品しない業者は「納品業者」とは言いませんからね。

水野 品物を納めると書いて「納品業者」ですからそこには何もバカにする要素なんかありません。

ん。

反町 バカにしていると感じている先生の方がバカにしているんじゃないですか？

先生 ああ言えばこういうんだから…。いやそりゃそうかもしれないけどね、この人は、君たち

の使う教材を運んで下さってるんだよ。粘土とか。

欄橋 粘土は重いですよ。

先生 粘土は重いですよねえ。粘土は重いんだよ。

堂上 粘土が重いことは僕らだって知ってます。

欄橋 最近では軽い粘土というのもあるんですよ。

先生 そうなんですか。

欄橋 かるかるラピッドという粘土なんですがね、

先生 かるかる…？

欄橋 軽くて、すぐに固まるという粘土です。

先生 紙粘土とは違うんですか？

欄橋 紙粘土とは違うんだよ。

先生 紙粘土も乾燥するからって、作業してる時は

欄橋 濡れ布きんを掛けてたでしょ。

先生 そうそう。あれが面倒で、

欄橋 今でも濡れ布きんは必要かもしれませんが、かなりきめ細やかになってますから以前ほど

堂上 ねえいつまで粘土の話してんの？いつまで粘土の話してんの！

先生 ……そういう、僕らにとって大切な仕事をして下さってるんだよ。

欄橋 こういう楽器とか。

先生 そうですよ。僕の場合だと、今年度は地図帳とかもありますね。

欄橋 そうだねえ、今年度は、

堂上 年度の話になったからって僕が「ネンドの話はもういいよ」って突っ込むと思つたら大間

違いですよ。僕はそんなに軽い男じゃない。

先生 ……軽い粘土もあるという話で、

欄橋 かるかるラピッドという粘土でね、

堂上 また粘土の話するの！粘土とか年度とか、もうどうでもいいんですよ。わかりますこのど

うでもよさ！

先生 ……すいませんね、いつもは悪い子達じゃないんです。

欄橋 いえ…。

蓮華 納品業者じゃなくて僕らは先生に頼んでるんです。お願いします。合唱部に入ってください。

先生 えー？

生徒達 お願いします！

堂上 お願いします！

先生 ヤダ。

蓮華 お願いします。合唱部に入ってください！

生徒達 お願いします！

堂上 お願いします！

先生 ヤダ。

蓮華 お願いします。合唱部に入ってください！

生徒達 お願いします！

堂上 お願いします！

先生 ヤダ。

間。

先生 ヤダ。

反町 なんだよお前さつきから！

生徒達 反町を制する。

反町 偉そうにさ、生徒がここまで頭下げたんだぞ。何様のつもりだ。えー！

堂上、窓の向こうを見て

堂上 もうすぐ日が暮れる。この壁の向こうに女子が居るとしたら、きつと下校の時間だ。

蓮華 なお水野、出してよ。今すぐ外に出してくれよ。

水野 無理だ、風紀委員でも校舎の外には出られない。

反町 ちくしょお。ちくしょおちくしょお…。

城田 ♪シー！は幸せよ、さあ歌いましょー！

城田、窓の外に向かって歌う。

不破 やめろ！早まるなバカ、まだ早い！

城田を羽交い絞めにする不破。

堂上 おや、これは、なんだい？

堂上 床に落ちているピン止めを見つめる。

反町 こ、これは……女子が髪を止める時に使うと言われている、ピン止めじゃないか。

蓮華 間違いない、これはピン止めです。

水野 ピン止めがあるという事はもしかして……？

堂上 女子が、ここに居た……

城田 女子……(廊下の先を見る)？

他の皆も廊下の先を見る。

堂上 キャップ、ミスチルを教えておくれ。

不破 ミスチルは、ちんこみたいな響きがあるんじゃないのかい？

堂上 もう無い。僕はどうかしていた国民的アーティストミスチルにちんこみたいな響きある訳

ない！ミスチルごめん！ミスチルごめん！

蓮華 僕からもミスチルに謝ります！

水野 僕もミスチルに！

堂上 ミスターチンチルゲごめん！

反町 ごめんミスターチンチルゲ！

蓮華 ねえミスターチンチルゲって何？！

水野 ミスターチルドレンだろ！

堂上 ミスターチルドレン……？

蓮華 知らなかったのかよミスチル。

反町 ひどいよチンチルゲなんて……

不破 ドレミの歌の最初の音は、それぞれのその音階の音になっている。それをまずマスターし

よう。マスターチンチルゲはそのあとだ。

水野 そんな歌手居ないよ。

蓮華 もう全然違うものになっちゃった。

城田 マスチル。

蓮華 その方が卑猥じゃないか。

堂上 ♪ゼーはドーナツのドー。

蓮華 ♪レーは、レモンのレー。

水野 ♪ミーは、みんなのミー。

不破 ♪ファーはファイトのファー。

反町 ♪ソーは青い空ー。

城田 ♪らーはラッパのラー。

生徒達、先生を見る。

先生 ……もうダメだ、上の階に行きましょう。

欄橋 はい……。

先生と欄橋、上手へ歩いて行く。

水野 ……行くのか、さらに上の階に。ここから先は命の保証はないぞ。

堂上 ……行こう。ここまで来たらもう後戻りは出来ない。七つの音が揃った時、僕らに怖いもの

はない。

生徒達 さあ、歌いましょう！

と歌いながら、上手に歩いて行く一同。

暗転。

／ 四階 ／

廊下。

女子1と2、シャボン玉を吹いている。腰には「4」のプラカードがくっついている。

下手から、男達の歌うドレミの歌が廊下に反響してだんだんと近づいてくる。

二人、上手に去る。

やがて先生と欄橋、下手からやってくる。

続いて生徒達



城田 ヲジューはドーナツのドー。

不破 ヲレーはレモンのレー。

堂上 ヲミーはみんなのミー。

反町 ヲファーはファイトのファー。

蓮華 ヲソーは青いそら。

水野 ヲラーはラッパのラー。

先生 あ、見て下さい欄橋さん、工作室ですよ。

欄橋 音楽室は？

先生 実は僕、四階初めて来たんですよ。

欄橋 そうなんですか…。

生徒達 (先生に向かって) ヲさあ歌いませよ。

先生 視聴覚室もありますね。

欄橋 音楽室は？

先生 この階は実習室ばかりだ。もしかしたらこの階にあるかもしれませんよ、音楽室。

欄橋 はあ…。

城田 ヲジューはドーナツのドー。

不破 ヲレーはレモンのレー。

堂上 ヲミーはみんなのミー。

反町 ヲファーはファイトのファー。

蓮華 ヲソーは青いそら。

水野 ヲラーはラッパのラー。

先生 えーっと、(行こうとする)

堂上 先生。

先生 はい？

堂上 先生の番です。

先生 え？

生徒達 ヲさあ歌いませよ。

先生 …。川口先生って、男の先生ですか？

欄橋 うーん…。

先生 ちよつと年が行った感じの、

堂上 先生。

先生 はい？

生徒達 ヲさあ歌いませよ。

先生 …。

生徒達 ヲさあ歌

先生 歌わないですよ。

生徒達 …。

先生 だから僕、先生ですから…。

城田 ヲジューはドーナツのドー。

不破 ヲレーはレモンのレー。

堂上 ヲミーはみんなのミー。

反町 ヲファーはファイトのファー。

蓮華 ヲソーは青いそら。

堂上 不破君。

不破 なんだい？

堂上 この、「ソ」の歌詞なんだが、ここだけ、どうして「リ」で終わってるんだい？

不破 …え？

蓮華 ヲソーは青い空！…本当だ「リ」で終わっている！これはどういう事？

水野 「ソ」なのに「ラ」なの？それとも「ラ」なのに「ソ」なの？

反町 凄いや、早口言葉みたいだ。

堂上 これもしかしたらどちらか一つで事足りるという事じゃないの？

不破 ではなにかい？部員を一人減らさないといけないという訳かい？

城田 あ、じゃあ僕トイレ掃除行って来てもいいですか？

堂上 先生。

先生 はい？

堂上 先生はやっぱり必要ないみたいです。

先生 …え？あ、ああ、そう？

堂上 先生、合唱部を辞めてよ。

生徒達 お願ひします！

堂上 お願ひします。

先生 …いや、うん、入つてないから…。

生徒達 お願ひします！

堂上 お願ひします。

先生 …なんで僕が入りたくて入つたみたいな気分させられるのかなあ？

堂上 先生、合唱部を辞めてえ。

生徒達 お願ひします！

堂上 お願ひします。

先生 はい、辞めました。

堂上 よし、これで揃つた。僕等は六人で七つの音を分担しよう。

生徒達 はい！

城田 ♪ドーはドーナツのドー。

不破 ♪レーはレモンのレー。

堂上 ♪ミーはみんなのミー。

反町 ♪フアーはフアイトのフアー。

蓮華 ♪ソーは青いそらーはラツパのラー。

水野 ♪シーは幸せよく。

生徒達 ♪さあ歌いましょう！

堂上 いいねえ！

蓮華 いいよー！

水野 これだよこれー！

先生 じゃあ行きましようか。

欄橋 あのお、みなさんね、

堂上 あ、なんか納品業者さんが喋りますよ。はい、なんですか？

欄橋 「ド」の、城田君？

城田 あ、はい。

欄橋 「フア」の反町君？

反町 あ、はい。

欄橋 音、ずれてるね。

反町 …え？

欄橋 あと、「ド」の城田、「レ」の不破、

不破 僕が何か？

欄橋 「ミ」のドノウエ、

堂上 はい。

欄橋 「フア」の反町、「ソ」のレンジに「シ」の水野。

蓮華 はい。

水野 はい。

欄橋 ややこしい。

堂上 …は？

欄橋 「ド」城田「レ」不破「ミ」ドノウエ「フア」反町「ソ」レンジ「シ」水野、うーん、ややこしい。

堂上 これは僕らがやりたい音を選んだ結果なんです。

蓮華 納品業者は納品するのが仕事でしょ？口は出さなくて貰えますか？

反町 城田君が一番良い声してるし、なんか髪の毛染めてるから、

城田 これはトイレ掃除のしすぎで白くなったんです。

欄橋 ん？ちよつと意味わかんない。

先生 欄橋さん、もう放つておきましょう。僕はもうこの部活とは関係ないんで、

堂上 最初は僕が「ド」がやりたいって言ったんです。「ド」はやつぱり最初の音だし、リーグ

一みただし、一番かつこいだから。そしたら、

不破 「ド」が最初なんて誰が言ったんだい？「ド」の前には「シ」があるんだぜ。

水野 「シ」の前には「ラ」、

蓮華 「ラ」の前には「ソ」、

反町 「ソ」の前には「フア」、

堂上 つてこいつらが言うから僕は「ミ」にしたんです。

不破 僕は「ミ」の前には「レ」があるとは言わなかった。なぜなら音に優劣なんか無いからさ。

堂上 不破君…。

蓮華 あの時凄くイイ事言ったんだ、不破君は。

堂上 それで決まったんです。

反町 僕もドノウエ君は「ド」の上なんだから、「レ」がいいんじゃないかと言ったんですがね。

水野 あれは上手い事言ったなあとは思った。でもイイ事言ったなあとは思わなかったんだ。

反町 そうか。

水野 でもホント、上手い事言ったなあとは思ったよ。

反町 ありがとう。

水野 ううん。

先生 ほらね、彼らの話を聞いてるとなんの話だか分からなくなって来るでしょ、だから相手にしない方がいいんです。

欄橋 じゃあレンゲ君は、「ソ」と「フ」、二つの音をやるんだね？

蓮華 ……え？

欄橋 箱から楽譜を取り出し、

欄橋 ここに楽譜がある。これはオッフエンバック作曲「天国と地獄」。

堂上 ……オッフエンバック？

蓮華 天国と、地獄…。

水野 今まさに天国に這い上がるうとしてる僕らにぴったりのタイトルじゃないか…。

反町 ミスチルは？

堂上 ちよつと待つて皆、今の聞いた？「オッフエンバック」つてナニか凄くやらしい事に違いないぞ。そんな歌うたつて後でPTAに怒られても知らないぞ。

欄橋 「天国と地獄」口ずさむ。

不破 運動会だ…。

水野 全然やらしくない…。やらしいとはるか遠い位置にあるものだ。

堂上 小学校の、徒競争だね…。

蓮華 …あの頃はこんな高校生活を送るなんて思いもしなかった…。

反町 女子がたくさん居たんだ。

水野 好きな子いじめてさ。

蓮華 今思うとなんて勿体ない事してたんだろうって思うよ。

城田 僕はただ、トイレ掃除してただけなんです。

不破 大きくなったらアイドルに会えるって本気で思ってたんだ僕は。

反町 チップスターの容器にちんこつつこんでさ、

蓮華 そんな事はしなかったけど。

反町 やってることは今と変わらないんだもん。

堂上 今もやってるのかい？

反町 気がつくかね。

堂上 僕等は身体だけが大きくなって、世界はどんどん狭くなって行く。

先生 音楽やってたんですか？

欄橋 一時、先生を目指してたんですよ、音楽の。

風に揺られてシャボン玉が飛んでくる。

先生 だから納品業者に？

欄橋 これは、家業なんですけどね。

先生 ああ…。

反町 なあみんな、僕はさつきからこの廊下に漂うしゃぼんの香りが気になってしかたがないの

だが…？

蓮華 しゃぼんの香り？するかい？

水野 しゃぼんの香り…、

堂上 そう言われると、なんとなくする気が…うん、する！

蓮華 してきた！

反町 (クンクン) これは間違いないしゃぼんの香りだ。

水野 しゃぼんの香りは、

反町 それすなわち女生徒の香り。

城田 …(クンクン)。

蓮華 近い！コレ近いぞ！

堂上 この香りの強さからして、今さっきまでここに居たんじゃないのか？

不破 歌だ！唄いながら歩いてきたからそれに引き寄せされてきたんだ。これが歌の力さ！

堂上 凄いいじゃないか歌の力。

蓮華 唄います！僕は喉から血が出るまで唄います！

堂上 僕も血を出します！

水野 じゃあ僕も！

反町 僕だって血を出す！

不破 喉から血が出るような歌い方は間違ってる。お腹から声を出せば、喉から血なんて出ない。

生徒達、楽譜を見て

蓮華 …そ

不破 …れ、れ

堂上 …み、…み

城田 …え？

反町 (城田の楽譜を指さし) ハニ。

城田 あ、ど…、ど

不破 …れ

反町 ふあ…、

城田 ど、

不破 ん？

反町 (指さし)。

城田 え？

堂上 …ダメだ、これ難しいよ、一人一音なんて逆に難しいよ。

反町 城田君さ、なんか君声良い癖に全然リズム感無いんだもん

城田 え？

反町 なんの為に髪染めてるのかわかんないな。

城田 これはだからトイレ掃除のしすぎで…

堂上 不破君も、僕そうに言ってる割にはものすごく音痴なんだ。

不破 なんだって？

反町 音痴。

堂上 君の音全然違うじゃないかよ。

反町 音痴。

不破 僕が音痴だったらな、君達はみんなうんちだ。

堂上・反町 なんだと！

欄橋 さあ練習しよう、練習。

水野 時間が無いんです上僕らには！

城田 僕はやっぱりトイレ掃除しか向いてないんです(去ろうとする)。

欄橋 おいおい…、

堂上 君はそんなに下手くそなのによく合唱部を作ろうなんて言ったな。

蓮華 彼女に振られた腹いせかなんかだよどうせ。

不破 …。

蓮華 凶星だ。

不破 蓮華、貴様…。

蓮華 またすぐ殴る。風紀委員、この子暴力振ります！

欄橋 はい喧嘩しない。

水野 やっぱ僕らには無理なんだよ合唱なんてさ。

堂上 監督、短時間でたいした努力もせずに上手くなる方法はありませんか？

先生 そんな方法あるわけないだろう。

欄橋 そうだなあ、

先生 欄橋さん？

蓮華 監督、僕やっぱ、「ソ」と「シ」、二つ出すの大変なんですけど。

欄橋 ほれみろ。

先生 君達、納品業者さんと呼びなさい。

堂上 弱ったなあ、こりゃあ前途多難だ。

生徒達、先生を見る。

先生 なに？

堂上 なんだい先生、合唱部に戻って来る気になったのかい？

先生 は？

堂上 しょうがない。監督、どうか先生を許してあげて下さい。

他 お願いします！

堂上 僕らに免じて、お願いします！

先生 は？

欄橋 しょうがないな。

先生 欄橋さん？

堂上 じゃあ先生、また一緒にやろう。ね。

先生 バカじゃないの。ねえ僕先生。顧問をお願いされたの僕。

堂上 はい。

先生 うん、その顧問をさ、君達は勝手にクビにしたの。ね、クビにしたり、また一緒にやってとかつてさ、ちよつと自由すぎると思わないかい？そんな自分達の都合で他人を振り回しちゃいけないよ。

先生 ……

堂上 ……

先生 社会では通用しないよそんな事では。

堂上 ……ごめんなさい。

先生 ……

堂上 ごめんなさい先生。

先生 ……いやまあ…、わかってくれたらいいんだけどね…。

堂上 じゃあ合唱部に戻って来。

先生 軽いなあ…。

堂上 だつて先生だつて合唱やりたいんでしょ？

先生 うん、やりたいかやりたくないで言ったら、

堂上 うん。

先生 やりたくない。

蓮華 とか言つてやりたいんでしょ？

先生 うーん、やりたくない。

反町 とか言つてホントは？

先生 やりたくない。

水野 とか言つて

先生 やりたくない。

不破 とか

先生 やりたくない。

堂上 ごめんなさい、戻つて来て。謝るから、ごめんなさい。

生徒達 ごめんなさい。

先生 ……あのね、謝れば済むつてもんでもないからさ、

堂上 お願いだからあ。戻つて来てえ。こうやってあやまるからあ。

生徒達 ごめんなさい。

堂上 ごめんなさい。

先生 ……

欄橋 やつてあげたらどうですかい？

先生 えー？

欄橋 やつぱり一人足りないし難しいよ。

先生 欄橋さん…、

欄橋 せつかくあんなにやる気になってるんだ、先生が助けてあげないでどうするんですか？

先生 ……えー？

欄橋 こゝまでやる気になってる彼らを、今まで見たことありますか？

先生 だつて、訳わかんないし…、

欄橋 先生ね、世の中訳のわかる事はかりだったら、そんな世界は面白いかい？訳がわからない

事があるから、人は成長するんじゃないんですか？可能性は、訳の分からないところから始

まるんだ。

先生 ……

欄橋 彼らのやろうとしている事を、わからないというだけで否定するのは止めてください。

堂上 納品業者…。

生徒達 口々に「納品業者」とつぶやく。

先生 …いつからそんな向こう側に行っちゃったんですか？

欄橋 彼らは気づいていないんですよ、今の彼らの衝動こそが、青春だと言っつ事を。

生徒達 納品業者ー！

欄橋 私からもお願いします、彼らの助けになってあげてくれよ。

堂上 お願いします、先生！合唱部に戻って来てえ。

生徒達 お願いします！

堂上 お願いします！

先生 …もお、わかったよ。

生徒達 いえーい！

先生 その代り、音は僕に選ばせてよね。

堂上 じゃあ先生「フ」ね。

先生 選ばせて！

堂上 だってもう「フ」しか空いてないよ？

先生 僕は…、「ド」がやりたい。

堂上 「ド」はダメだよ。もう城田君が居るから。

先生 僕は「ド」以外はやらない。「ド」はやっぱり、かつこいいから。

堂上 先生いいかい、音に優劣はないんだよ？

先生 誰がなんと言おうと僕は「ド」以外やらないからね。何度も言うけど僕は先生なんだ。先

生が「ド」じゃないとかっこつかないだろ。

堂上 子供だよなあ。

蓮華 ひどいよそんな、後から入って来て勝手に「ド」の音をやらして欲しいだなんて、

水野 それはちよつと横暴ですと先生。

反町 城田君も何か言いなよ。

城田 じゃあ僕「フ」やります。

堂上 じゃあ決まりだ。先生は「ド」ね。

先生 しょうがないなあ。

不破 では僕が「シ」をやろう。

堂上 あれ？でも「シ」は、水野君だよ。

水野 じゃあ僕、「レ」をやります。

堂上 凄いや、何このスムーズな展開。まるで始めからその音で決まっていたかのようなスムー

ズさだ。

欄橋 じゃあ、これで決まりだ！

生徒達 はい！

欄橋 いち、に、いちにさんし！

欄橋が指揮をして、「天国と地獄」を歌いながら一列に行進して行く一同。  
そのまま上手へ消えていく。

／ 五階 ／

下手から、女子1が「5」のプレートを持って出してくる。

一行は歌いながら下手から上手へ行進していく。

列の最後に女2が付いてきている。手には「6」のプレート。

／ 六階 ／

一行の目の前にはロープが何重にも張られている。

欄橋 ストップストップ…これは、なんだい？

先生 え？

欄橋 行き止まり、みたいだね…。

先生 ああ、

ロープには「立ち入り禁止 学校長」の札が掛かっている。

欄橋 この先は？

先生 屋上、ですかね。

欄橋 ああ…。

先生 …(生徒たちを振り返り) どう、しますか？

堂上 …え？

先生 行き、ますか？屋上。

城田の隣に女子が二人立っている。

城田 ……！

女子二人、ぺこりと頭を下げる。

城田 ……。

堂上 …そりやまあ、先生が行くって言うなら。

先生 …え？

堂上 だって僕らはこの学校の生徒ですから、校則は破れませんよ。

先生 いやもう充分破ってるよ。

水野 先生、どうやら僕らにはここが限界みたいです。やっぱり屋上には登れない。だって僕は

今まで校長室に呼ばれて戻って来た生徒を一人も知らないんだもの。

先生 ……。

水野 先生はいいですよ、先生だから。

先生 先生だってそんな…。

水野 危険を冒してここまで登って来たけど、一度も女子とすれ違わなかった。

城田 …(もう一度女子を見て、目をこする)。

先生 そうだ、もしかしたら屋上で女子がうじゃうじゃなんか食ってるかもしれないよ。

蓮華 何その光景、気持ち悪いよ。

反町 気持ち悪いよ！

堂上 先生はどうして女子の事をそんな虫ケラみたいに言うんですか？

先生 だってなんか良く食べてるでしょ、お菓子とか、

蓮華 先生は女子が嫌いなんだよ。

水野 男が好きなんですか？

反町 なんのDVD見てるんですかいつも。

先生 じゃあもう、帰りますか？

皆 ……。

城田 …(口をパクパク言わせている)。

先生 帰りましょうか。先生だってね、ただの先生だからさ、公立じゃないんだからね、いつく

ど切られるかわからないだし、うん…。

欄橋 お前らいい加減にしろよ！何言ってるんださつきから。お前ら合唱がしたいんだろ？誰かに

聞かせたいんだろ？だったらこんな壁の中で歌っててもしょうがねえだろうが。屋上で歌えよ

屋上で。

堂上 あなたは、ただの納品業者だからそんな呑気な事が言えるんですよ。

水野・蓮華・反町 そうだそうだ。

欄橋 男の子がこちやこちや言ってるじゃねえ！お前らよ、唄うって言ったじゃねえか？あの意

気込みはなんだったんだ？え？

皆 ……。

欄橋 ああそうか、所詮口だけなんだなあ。お前らみたいな腰抜けは、卒業したって結局なんに

も出来ないで年をとるんだ。お前ら知らんだろうが、どこ行ったら校長みたいな上司は居る

からな。いつまでもビクビクして過すがいいよ。

先生 お父さん…。

他 お父さん…。

口ぐちに言う生徒達

欄橋 お前らみんなまだ途中なんだ、まだなんにも終わってないだろう？

堂上 ……うん。

欄橋 どうすんだ？

不破 もちろん僕は、行きますよ。

不破 ロープを外す。

水野 不破君！

不破 僕は転校生だからね、校長には会ったこともないんだ。

水野 君という人はなんだ、自暴自棄にも程があるぞ。

先生 よし、行くか。

先生もロープを外す。

水野 先生！

先生 この先には、君達の見たがっていた景色がある。…それを見たらこつそり帰りましょう。

水野 知らないぞ、僕は知らない（目を塞ぐ）。

反町 どうする？堂上君。

堂上 そりゃあ先生が僕らを無理やり連れて行く形になるんだから僕らにはなんの責任も無い

とは思っよ。

先生 さあご覧！壁の向こうが見える。何が見えますか？…何が。

生徒達 …。

背伸びをするように見えていた生徒達だったが、ゆつくりと肩の力が抜けていく。

欄橋 椅子を並べて

欄橋 さあ皆、歌おう。

堂上 え？

欄橋 ほら、何やってんだ？

堂上 …でも監督、見て下さい。

水野 …なんの為の壁だったんだよ。

欄橋 良かったじゃねえか、なんにも無くて。

堂上 …。

欄橋 この先にはお前らの想像もつかないくらい、たくさんの方が居る。そいつらに聞かせて

やろうじゃないか、お前らの合唱を。

皆 …。

城田 シー！

不破 バカ！どうして君はいつも一人だけで！

城田 だって、だって歌を歌うと女子が現れるという話は本当なんです。

不破 わかった、わかったから。

城田 だって…

不破 わかったって！

城田 …。

不破 …レンゲ、水野、反町、城田、ドノウエ。俺達はついにここまでやってきた。

生徒達 うなづく。

不破 もうここまで来たら、下手くそだってイイト。歌ってやろう、精一杯大きな声でさ。

蓮華 …聞いてると良いね、君の彼女

不破 もう僕の彼女じゃない…。

不破 椅子に座る。

蓮華 …誰かの彼女が。

反町、座る。

蓮華も城田も座る。

堂上 …もう誰に聞かれたってかまやしない。

堂上、水野の肩を叩き、座る。

水野、強くうなづく座る。

先生 …。



先生も座る。

欄橋、箱から新たな楽譜を取り出し、配る。

欄橋 これは、ベートーヴェン「喜びの歌」。これが、君たちの最後の課題だ。

反町 喜びの歌…。

堂上 「ベートーヴェン」、うん、この人なら大丈夫だ。

欄橋 一度は聞いた事がある曲だと思う。

皆 (うなづく)

欄橋 じゃあ行くよ。いち、にの、さん、はい！

堂上 ミー、ミー

反町 ファー

蓮華 ソ、ソ

反町 ファ

堂上 ミ

水野 レ

先生 ド、ド

水野 レ

堂上 ミ、ミー

水野 レ、レー

堂上 ミ、ミ

反町 ファ

蓮華 ソ、ソ

反町 ファ

堂上 ミ

水野 レ

先生 ド、ド

水野 レ

堂上 ミ

水野 レ

先生 ド、ド

水野 レ、レ

堂上 ミー！

先生 ド！

水野 レー！

堂上 ミ！

反町 ファ！

堂上 ミ！

先生 ド！

水野 レー！

堂上 ミ！

反町 ファ！

堂上 ミ！

水野 レ！

先生 ド！

水野 レ！

蓮華 ソー！

堂上 ミー、ミ！ (立つ・すぐ座る)

反町 ファー！ (立つ・すぐ座る)

蓮華 ソー、ソ！ (立つ・すぐ座る)

反町 ファー！ (立つ・すぐ座る)

堂上 ミー！ (立つ・すぐ座る)

反町 ファー！ (立つ・すぐ座る)

水野 レ！ (立つ・すぐ座る)

先生 ドー、ドー！ (立つ・すぐ座る)

生徒達、自分の音を発する時だけ立ち上がる。

先生も一緒になって立ち上がってしまう。

欄橋は、その様子を見届けてから、黙って屋上を去っていく。



皆（先生と女子以外）（立ち上がり）さあ、歌いましょう！  
女1・2 いちこのさんはい！

条件反射的に「天国と地獄」を歌い出す男子達

先程と同様に、音を発する時は立ち上がる。

蒸気機関のピストンのように立ったり座ったりを繰り返す。

\*巻末楽譜参照。

歌い終わると全員立ち上がっている。

歌っている途中からサイレンが鳴り響いていた。

先生 ……この音は？

水野 ……終わりました。外出禁止が解かれた。

先生 ……あ、じゃあもう僕らは外に出られるの？

水野 そう、ですね…。

先生 そうなんだ…。

皆 座り込む。

しばしの間。

堂上 ……あ、じゃあ、僕帰るね。

蓮華 ……あ、ホント？

堂上 ……うん、今日は僕、塾があったんだ。帰ったらひどく怒られる…。

蓮華 ……僕もだ。

反町 ……不破君。

不破 ……なんだい？

反町 ……痛いなあ、ほっぺ。

不破 ……そんなにずっと痛いかい？

反町 ……でも、ありがとね。

不破 ……え？

反町 ……歌は、いいよね。

不破 ……反町君、「ありがとね」は僕のセリフさ。

城田 ……僕は知ってる、ピカピカになっていくトイレを見た時の感覚、それに近いものがあります。

それは汚れたトイレが磨かれて、白が白を取り戻していくような、そしてなんの抵抗もなく流れていく水は山の清流を思わせ、下水のイメージの欠片もなく、とてもすがすがしいものです。

堂上 ……僕も今そのくらいの言葉は言おうと思っていたんだ。

城田 ……皆さん帰りはトイレでおしっこして行って下さい。きつとびっくりするほどきれいになってますからね。

蓮華 ……おしっこなんかもう出ないよ、あー暑い。

城田 ……トイレがきれいな学校は、まだまだ大丈夫ですから。

堂上 ……君の理屈はよくわからないな。

水野 ……（胸にバツジをつける）さて君たち、風紀委員として言っておくが、ここでの事は他言しない方がいい。無事に卒業したいならね。

蓮華 ……やっぱり嫌な奴だよ君は。良かったよ友達に戻らなくて。

皆 立ち上がる。

先生 ……ねえみんな。明日もここで、練習しないか？

堂上 ……え？

先生 ……僕等は合唱部なんだ。練習しないと、届かないよ、もっと遠く。

堂上 ………しょうがないなあ、先生がそんなに言うなら、いいよ。

蓮華 ……僕も練習なんかしたくないけど、先生の命令なら、いいよ。

反町 ……別に女子にモテたいって訳じゃないんだ、僕は純粋に合唱が上手になりたい、それだけさ。

堂上 ……僕だってそうさ。

蓮華 ……僕だって。

不破 ……よしみんな、明日もここで、また会おう。

水野 ……じゃあ僕はまた、君たちを取り締まりに来ることにしよう。

堂上 ……じゃあね先生、早く帰りなよ。

皆 出て行く。

先生 なんて僕が残りに残ってて残ってみたい気分になせられるのかな…。

女子二人 立っている。

先生 君たちも、早く帰りなさいよ。女の子なんだから。

先生 出て行く。

女子二人、鼻歌を歌っている。  
暗転。

／ 次の日 ／

屋上、夕方。曇天。

欄橋が一人、ベンチに座っている。

紳士風の恰好をしている。

楽譜を見ながら♪「クシコスポスト」を口ずさんでいる。

先生、やって来た。

欄橋 これほちよつと難し過ぎますね。

先生 まあ、生徒達には高すぎる壁の方が、ええ…。

欄橋 今日は、いい天気ですねえ。

先生 今日、いい天気ですか…？

欄橋 雨が降ってると思えば、いい天気ですよ。

先生 はあ…。

欄橋 ♪「クシコスポスト」を口ずさむ。

先生 それ、見せて貰ってもいいですか？

欄橋 どうぞ（楽譜を渡す）。

先生 僕、ピアノやっていたんです小学生の頃。だから読めるんです、楽譜。

欄橋 合唱とはねえ、その発想は無かったですね。

先生 うわー、この曲は不破君と城田君には無理ですね、「シ」と「フ」ばかりだもん。これ

なら僕が「シ」をやりますね。♪シーは幸せよ、さあ歌いましょう。

欄橋 楽しかったですね、なかなか、あの子たち。

先生 あ、じゃあ、彼らは…！

欄橋 それと校則違反は、別ですよ。

先生 ですね…。

女子一人やってきて、キョロキョロと見回す。

先生 あ…、ごめんなさい、合唱部 解散。

女子、黙って帰ろうとする。

先生 あ、ねえ、

女子、振り返る。

先生 君たちは、いつもどこにいるの？

女子二人 …。

先生 あ、これは別に変な意味じゃなくてね、うん。

女子一人、顔を見合わせ、去る。

欄橋 女子が居ない訳じゃないから、男子校じゃないですよ。

先生 ええ…。

欄橋 行きましようか、雨降りそだし（立ち上がる）。

欄橋 去る。

先生、ポケットから小石を取り出し、階下に向かって投げる。

「パリーン」

どこからともなく女子だけの合唱、「いつくしみ深き」が聞こえてくる。

先生 …もう帰る、また閉じ込められたらたまらない。

先生 去る。

合唱だけが響いている。

終

天国と地獄

オフエンバク

Alto

ソレレミ レドドミ ファラドラ ラソソ ラシシラ ソドドミ  
 ミレミレ ミレミレ ソレレミ レドドミ ファラドラ ラソソ  
 ラシシラ ソドドミ ミレミレ レドド ミド ラソ ソレミファ  
 ミレド ミド ラソ ファソラシ レドド ミド ラソ ソレミファ  
 ミレド ミド ラソ ファソラシ ドソソソ ドソソソ ドソソソ  
 ドソソソ ドドドド ドドドド ドドドド ドドドド ファ ソシラソ  
 ドド ドレラシソ ソソ ソシラソ ファファ ミレ ドシラソ ファ  
 ソシラソ ドド ドレラシソ ソソ ソシラソ ファドソラ ファド  
 ファ ソシラソ ドド ドレラシソ ソソ ソシラソ ファファ ミレ  
 ドシラソ ファ ソシラソ ドド ドレラシソ ソソ ソシラソ  
 ファドソラ ファファ ソレレミ レドドミ ファラドラ ラソソ

2

ラシシラ ソドドミ ミレミレ ミレミレ ソレレミ レドドミ  
 ファラドラ ラソソ ラソソ ラソソ ラソソ ラソソ ラソソ  
 ラソソ ラソソ ラソソソ ラソソソ ラソソソ ド レファミレ  
 ソソ ソラミファ レレ レファミレ ドドシラ ソファミレド  
 レファミレ ソソ ソラミファ レレ レファミレ ドソレミ ドソド  
 レファミレ ソソ ソラミファ レレ レファミレ ドドシラ  
 ソファミレド レファミレ ソソ ソラミファ レレ レファミレ  
 ドソレミ ドドレミ ソファミラ ソファミレドドレミ  
 ソファミラ ソファミレドソドソドソドソドソドソドソ  
 ドソドドシラ ソファミレドドシラ ソファミレ  
 ド ミソソド ミソソド ミソソド ミソソド ミソソド ミソソド ミソソド

【上演記録】 2010年11月26日～29日 七ツ寺共同スタジオ

2013年3月15日～17日 下北沢「劇」小劇場へ若手演出家コンクール2011最優秀賞受賞記念公演〔東京公演〕

3月19日～20日 リューとぴあ新潟市民芸術文化会館〔新潟公演〕

3月29日～31日 せんだい演劇工房101BOX〔仙台公演〕

4月12日～14日 アトリエ劇研〔京都公演〕

4月19日～22日 七ツ寺共同スタジオ〔名古屋公演〕

作・演出／平塚直隆 舞台監督／柴田頼克 照明／今津知也 音楽／青井美都 音響／田内康介・覚前遥

この戯曲の著作権は、作者である平塚直隆にのみ帰属するものです。  
上演許可あるいはその他のお問い合わせは、作者の所属する「オイスターズ」どうぞ。

■ オイスターズ ■

ホームページ

<https://oysters.official.jp>

メールアドレス

[theatrical\\_unit\\_oysters@yahoo.co.jp](mailto:theatrical_unit_oysters@yahoo.co.jp)